

潮流れ迷走

夏磯ウキ流し「マダイ」

南薩・坊津の磯では、ほぼ1年を通して良型マダイが狙うことが出来る。ここでの釣り方は遠投カゴ釣りの他、沖に流れる潮を利用したウキ流し釣りやチョロ釣りも効果的。今回は夏の坊津の磯のマダイのウキ流し釣りをご紹介します。

鹿児島県・南さつま市・坊津☆横瀬・大瀬
20 July 2016

さと丸

鹿児島県・南さつま市☆泊港

出船

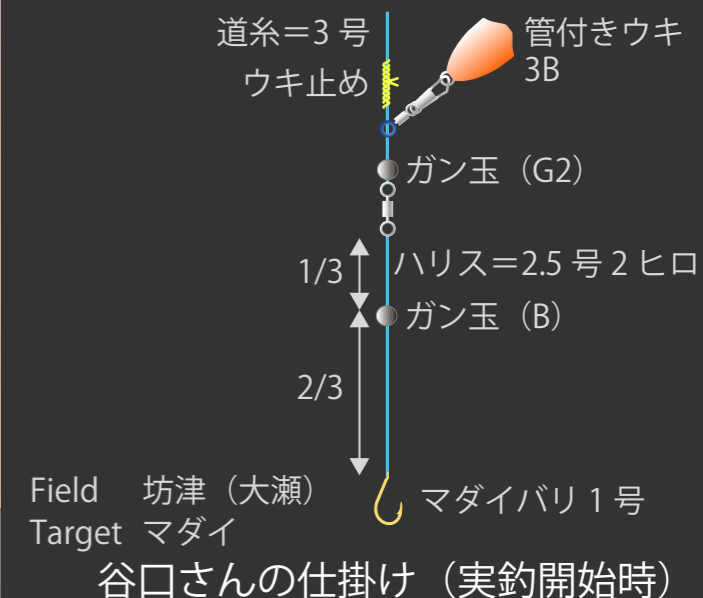
薄っすらと夜が明け始める泊港から瀬渡し船「さと丸」が坊津の磯場に向かって出航する。今回マダイ釣りで渡礁するのは、谷口勝彦さん(薩摩川内市)、岩下テツヤさん(出水市)、匿名のTさん。谷口さんは坊浦湾口北側の「横瀬」へ、岩下さんと匿名のTさんは湾口の南側にある「小立神」に乗磯することとなった。



タックル

横瀬に乗礁した谷口さんの実釣開始時のタックルは、ロッド=磯竿 (4.8 ~ 5.3m zoom)、リール=スピニングリール 2500番 (レバーブレーキ付き)、道糸=3号、ウキ止め、管付きウキ (3B)、ハリス=2.5号 2ヒロ、ハリ=真鯛バリ 1号、ガン玉 (G2+B)。シモリ玉や潮受けなどを使用しないシンプルな構成となっている。道糸やハリスは平均的な釣り人に比べるとやや太めだが、大物を確実に取り込むためにはこのぐらいの太さが必要なのかも知れない。しかしラインを太くすることで、ラインが潮に引かれやすくなるなど、魚の食いは悪くなりやすい。そこで適切なラインメンディングなど、太ラインで食わせるテクニックが必要となって来る。ウキ流し釣りでは、仕掛けを 100m 以上流すため、視認性の高い良く目立つウキも効果的。

Rod 磯竿 4.8 ~ 5.3m (zoom) ©wiredFish
Reel スピニングリール 2500 番 LBD



p1...最初の釣り座
p2...後からの釣り座
①~④...当日の下げ潮



横瀬

付け餌と撒き餌

付け餌はオキアミの生とボイルを用意。サイズはいずれも LL サイズ。食いの状況に応じて、生とボイルを使い分ける算段である。撒き餌は、オキアミ、パン粉、集魚剤を混ぜ合わせた物。エサ取り魚の多い状況では、撒き餌はパン粉のみを使用する場合もある。今の「横瀬」の瀬際には、かなり多くのエサ取り魚が群れている。この状況に対して、谷口さんは撒き餌を瀬際にのみ打つこととする。これでエサ取り魚が沖に出る心配はない。本命の沖のマダイは、瀬際から潮に乗って拡散するわずかな撒き餌でも集魚効果が発揮できるはず。

好潮とは逆方向の潮流れ

最初の釣り座は、瀬の南側の先端部近。今はまだ潮の流れは遅く、「小立神」方向に投じた仕掛けはゆっくりと南西方向の沖に向かって流れていく。まだ期待できるような潮流れではない。

横瀬では下げ潮なら坊浦方向に、上げ潮なら坊浦方向から流れる潮が好潮となるとも言われている。しかし今は下げ潮にも関わらず、好潮とは反対の方向に流れている。しかも流れ方は支流や支々流が互いに複雑に干渉し合い、しばしば流れの方向が変わるような不安さを呈している。これが影響してか？釣り始めてから小一時間が経過するが、まだ目立った釣果はない。足下の瀬際では、先ほどから50cm級のメジナが見え隠れしている。試しにウキを0号に変えて少し狙ってみるが、本腰を入れて狙わなければ釣れそうにない雰囲気。

さらに一時間ほどが過ぎると、潮は南西方向に向かってこれまでより少し早く流れ始める。これは期待できるかも知れない。釣り座を瀬の南側の先端に移動して本格的にこの潮を狙い始める。それから約10分が経過した頃、40cm前後級のイサキが釣れる。現在の坊津では、潮が動けば昼釣りでもイサキも釣れる。今の状況は、これからさらに潮が流れるようにも感じられる。そうなればイサキの食いが続いたり、さらには本命のマダイも食って来るかも知れない。このままここに掛けてみるか、それともここに見切りを付けて瀬替わりした方が良いのか？ そろそろ決断の時刻が迫っている。

LIMITED PRO



小立神

瀬替り

岩下さんと匿名の「さん」が乗った「小立神」でも今朝は潮流れが悪く、思わしい釣果が得られない。二人は早々に瀬替りを決断。10時の見回りで「さと丸」が着くと、二人は素早く船に乗り込み泊浦湾口北側の「大瀬」へと向かう。時刻は午前10時を少し過ぎたあたり。本命のマダイを釣るために残された時間はまだ十分にある。

大瀬でリベンジ

岩下さんと匿名のTさんが乗った「大瀬」は、状況が良ければ、かなり好釣果も期待できるマダイの好ポイントでもある。ただ今日はここも潮の流れは不安定で、そこまでの釣果は期待できないかも知れない。二人は瀬の南側の角（大瀬4番）に釣り座を構えることとする。

二人は今朝「横瀬」に乗った谷口さんと同じ釣り仲間。釣り方はよく似た点も多い。タックルは管付きウキを使った谷口さんと同じような構成。付け餌はオキアミの生とボイルを食いの状況によって使い分ける。撒き餌はオキアミ、パン粉、集魚剤を混ぜ合わせ、遠投時にばらけない様にまとまり良く仕上げた物を使用している。今ここでは瀬際の餌取り魚はほとんど見られない。比較的安心して沖に撒き餌を打てそうだ。

日差しは次第に強くなり焼けるような紫外線も感じるが、海の風は涼しくて心地よく、さほど暑さを感じさせない。支度を終えた二人が、いよいよここで再びマダイを狙い始める。



矢ずはグルクン

ここでの釣りを始めてから約15分後、岩下さんにここでの最初の魚がヒット!! 瀬の沖合い15m付近のタナ落ち付近がそのヒットポイント。上がってきたのは、ぼつちりした体形のクルクン。残念ながら本命魚ではないが、南方系のこの魚、食べてもかなり美味しいらしい。

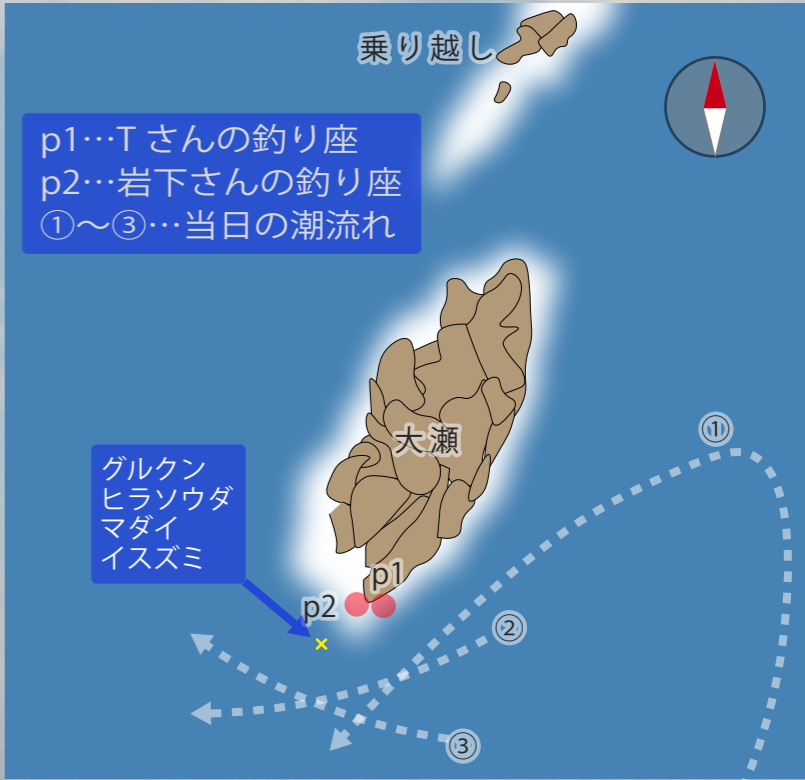
さらに数頭目、先ほどクルクンが釣れたのと同じタナ落ち付近で再び岩下さんに魚がヒット。なかなかの引きを見せてくれたが、この魚は根に潜り込みハリス切れとなってしまった。

このまま何かしら魚が釣れ続けるかのようにも思えたが、その後は目立った魚の反応のない時間が続いていく。

パワフル魚出現!!

クルクンを釣ってから小一時間が経過した頃、またもや岩下さんに魚がヒット!! 今度はこれまでになくかなりパワフル。ラインをキーンと鳴らしながら激しく抵抗する。引きの強さは良型マダイのようにも思えるが、走り方はマダイではないようだ。釣り人を手ごすらせ、約8分間にも及ぶ長い格闘の末に上がってきたのはヒラソウダ!! もともとはルアーマンの岩下さんにとって、磯竿でのやり取りはルアーフィッシングとは一味違った迫力が感じられたようだ。





遂に本命!!

匿名のTさんは、岩下さんとはほぼ同じポイントを狙っているが、なぜかクルクンなどの魚がヒットしない。どうやらその理由は仕掛けにあるらしい。Tさんは確実にマダイのタナに仕掛けが届くように潮の流れに合わせて小まめに仕掛けを微調整している。流れの速い今はオモリを重くして早く潮に馴染むようセッティングしている。その結果、マダイより上の層のクルクンやカツオなどの外道魚が食って来ないようだ。

今の所ヒットには至らないが、Tさんには度々かすかな怪しい魚信も現れている。必ず来るはず…そう信じて全神経を集中する。今の潮は南に向かい比較的速く流れている。これまでよりも状況は良さそう。この潮に仕掛けを乗せて流していく。そして、ウキが例のタナ落ち付近に達した時、スッと突然にウキが消し込んでいく。遂に来た!! しっかりと合わせてハリ掛りさせる。魚のどっしりとした重みや抗うパワーがロッド越しにずんずん伝わって来る。釣り人の竿さばきで魚はほぼ順調に寄せられて来てはいるが、時々釣り人の隙を見つけては瞬間的なパワーを爆発させて反撃を試みる。油断はできない。やがて水面に現れたのは、まぎれもなく本命魚のマダイ!! すかさず釣友の岩下さんが玉網を入れる。こうして上がってきたのは40cm オーバー級のきれいなマダイ。今日のような潮流れの悪い不利な条件下で釣った一尾はひとときわ嬉しい魚に違いない。



イスズミ (横瀬)



クルクン (大瀬)



イサキ (横瀬)



メジナ (横瀬)



ヒラソウダ (大瀬)



マダイ (大瀬)

当日釣れた主な魚



南薩・坊津の瀬渡し

さと丸

鹿児島県・南さつま市 泊港

URL <http://books-nekoya.jp/Fishing/boat/satomaru/index.html> Phone 080-1700-8222